



圓岡 伸夫 議員

10年プラン 矛盾では

町長 矛盾ではない

【圓岡】 未来づくり10年プランには「いつでもいつまでもスポーツを楽しめる環境をつくる」「スポーツ施設をより使いやすくする」と書かれている。

【町長】 現行施設の継続運営や廃止などの判断は、第6章行財政「必要な事業を精査すること」など、将来を見据えた町政運営の取り組みに該当し、矛盾には当てはまらない。

【圓岡】 地域の人が安心して生涯スポーツを楽しめる場所を保障すべきでないか。

【町長】 いまある物を、大切に使い続けていくことが重要だと思う。

告発しない理由は事実関係を調査中

町長

事実関係を調査中

【圓岡】 刑事訴訟法第239条2項では「官吏又は公吏は、その職務を行うことにより犯罪があつたと思料するときは、告発をしなければならない」と定められている。

【町長】 本人は、新聞記事は「事実と異なる」と言っている。記事の内容も作偽的・意図的なところもあるかもしれない。

いまは事実関係を調査中であり、その状況を踏まえ対処すべきと考えている。



朝礼で法令遵守を確認

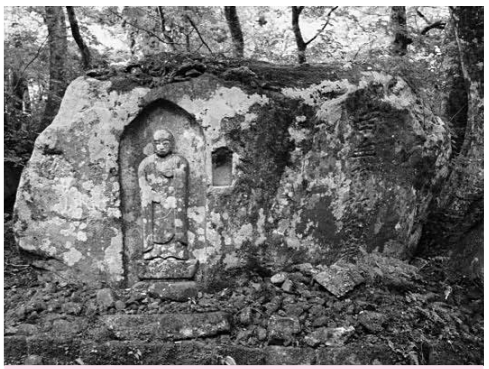
登山届けの義務化を

町長 遭難防止協会で検討したい

【圓岡】 1710年10月に鳥取県中部を震源としたM6.5(推定)の地震が発生。翌年3月には岡山県北部を震源としたM6.5の地震が発生し、大山で大規模な雪崩が発生した。

積雪期に地震が発生すれば、登山者が雪崩に巻き込まれる可能性もある。登山届けの義務化を県に働きかけるつもりはないか。

【町長】 現在は県や県警、県山岳協会など、多くの団体と連携して遭難防止に努めている。遭難防止協会の会議の場で検討したい。



登山者を見守る地藏尊

まったなし健康づくりは

町長 さまざまな施策で



杉谷 洋一 議員

【杉谷】 高齢者が心身ともに自立し心豊かな生活を送るためには、健康状態をチェックし、運動や食生活などの生活の質を重視した健康づくりを実践することが重要である。

健康意識調査の結果は。

【町長】 昨年からカーブスジャパン・筑波大学と本町の共同研究で実施しているのが、今後の健康づくり事業に反映させたい。

【杉谷】 保健師と集落の保健推進委員と連携



保健師による健康相談

した健康増進は。

【町長】 鳥取大学医学部と連携した保健事業や、出張ヘルスアップセミナーなどで健康意識づくりを進めている。

【杉谷】 健康対策課に健康器具を備えた健康相談室を開設しては。

【町長】 随時、健康相談を受け付けている。

【杉谷】 大山チャンネルで元気な高齢者の長寿秘訣の動画番組を制作しては。

【町長】 効果があると考えるので検討したい。

人間ドックの受診間隔は

町長

検討したい

【杉谷】 本町の生活習慣病は他市町村に比較して高い水準にある。人間ドックで健康状況の把握や病気の早期発見ができ、生活習慣病の予防や早期治療に役立っている。

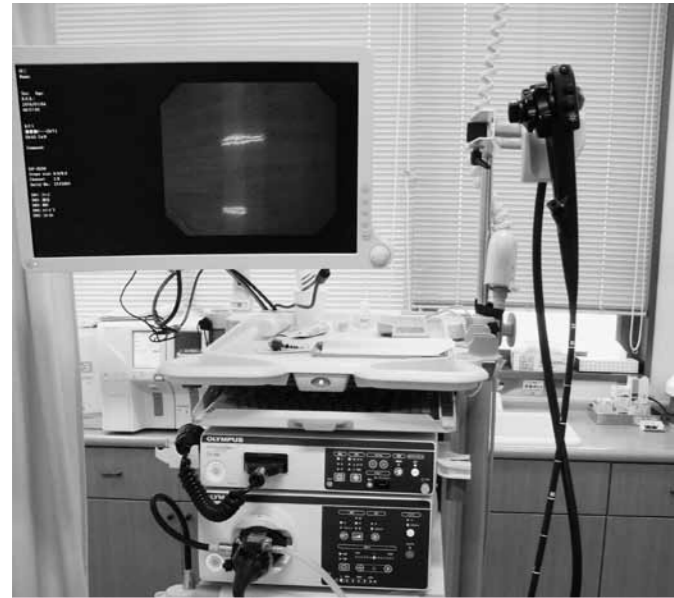
人間ドックの受診方法を変更した理由は。

【町長】 国保会計が医療費の増加などで法定外繰り入れをしなければならぬ状況にある。

また、国保診療所会計の健全化につなげるなどの目的による。

【杉谷】 人間ドックの受診者限定によって、今年度の受診者数が少なかった。5年1回の受診期間を短縮して、生活習慣病の予防と早期治療につなげては。

【町長】 従来、毎年受診と町内外受診が可能であった。電話で勧奨を行ったが、病院に定期的に行っているのに受けない、という人も多い。人間ドックは5年刻みの間にもう一つ入れるなど検討したい。



病気の早期発見を